

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400053		
法人名	株式会社キタイセ		
事業所名	グループホームあおい		
所在地	三重県いなべ市大安町大井田2836		
自己評価作成日	平成 24年 6月 7日	評価結果市町提出日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の年齢層が高いので、利用者の気持ちを理解しやすい点ではよいと思う。年齢層は高くても、若い人に負けないくらい職員は元気がよい。事業所の所在地の周りは自然が多く、四季の花々の咲く公園施設もたくさん有るので その季節ごとに全員で花見物に出かけることにしてる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリ【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JizyosyoCd=2491400053-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

事業所は2方向が大きな川に挟まれており、地域の民家からは少し離れているが、周囲は緑が多く窓からの景色は抜群である。デイサービス併設の事業所で、まだ30代の若い代表と高齢者介護に熱心な管理者の下、「職員同士の人間関係が非常に良い」のが自慢のひとつであり、また時間になって帰る職員に、「もう帰るの、又来てね」と利用者が声を掛ける、そのような利用者や職員と管理者が一体となった明るい、笑いの多い事業所である。まだ設立1年目ではあるが、8月には家族はもちろん地域の人にも来てもらっての楽しい夏祭りを計画している。早期に地域に根ざした事業所になれるよう努力している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24年 6月 26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和をし、理念に基いた介護を実践できるように励ましあっている。	設立当初に職員で検討しつくりあげた理念があり、毎朝の申し送り会議の席で、全員で声を出して唱和し、理念の共有と同時に、「さあ今日も頑張りましょう！」と気持ちの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	自治会に加入しているが事業所の立地が民家のある場所と離れているため日常的に交流がしづらい。この夏に地域、家族も巻き込み夏祭りを計画している。	事業所の立地が民家と離れているので、日常的な交流は難しいが、地域のボランティアに来てもらったり、中学生の体験学習を受け入れたり、地域と連携を取るよう努力している。	8月には地域の人や利用者家族を招いての「夏祭り」を事業所内で開催する計画を進めている。事業所設立1周年記念事業でもあり、ぜひ成功させてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これから活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、一度開催した。これからサービス向上のために、定期的開催していきたいと考えている。	事業所設立直後であり、やらなければならない種々の懸案事項があるので、運営推進会議は延び延びになっている状態である。	「会議」と堅苦しく考えず、身近な問題をテーマにするとか、事業所の催し物に参加していただいたりと、気楽な会議作りをされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点を質問したり、役所は近いので連絡は開設者自ら行っている。	役所へは代表が行く機会も多いが、管理者も介護保険代行申請や空き情報の連絡をはじめ、種々の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングの中で話し合い、資料等を読み合い、拘束しないケアをおこなっている。	グループホームは2階にあり、2階から1階への階段の扉にはアラームが取り付けられているが、鍵は掛かっている。普段から職員同士で拘束については話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから管理者、職員ともに話し合いの場を設け、資料等を配布して虐待のない介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ話し合い出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今後、十分な説明を行うように努力していく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者、家族とのコミュニケーションを大切にして、気軽に何でも話せる状況を作っている。	面会に来られる家族との会話の時間を大切にしているが、運営に関する要望等は少ない。家族向けに毎月発行している「あおい新聞」に職員からの一言コメント欄があり、その活用も今後図っていく意向である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置して職員の意見や提案を聞くようにしている。また、朝の申し送り時、管理者は必ず、代表者は必要時参加して話し合うようにしている。	常時気がついたときに管理者に提案しているし、毎朝の申し送りを含めた会議に代表及び管理者が出席しており、その場で職員からの意見や提案を受けている。業務日誌の様式その他、職員の意見で変更した物は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	途上だが努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者、職員の外部研修受講の機会を確保している。また、職員の研修等、補助をし働きながら勉強できるように推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は交流する機会を持っている。管理者や職員もこれから取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話をしっかり聞いて信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話しやすい環境を作り、ご意見箱を設置してご要望等に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活でできる事はして頂き、ともに行動していくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にできることは参加して頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もと住んでいた場所へ行くことはなかなかできてないが、利用者によって馴染みの医者への受診で関係が継続できている。	入居してまだ日が浅い利用者の友人の来訪があったり、盆、正月の帰宅や近くのジャスコへの買物等出掛けることは多く、馴染みの関係継続に努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションの橋渡しをして、利用者同士が支えあったりできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じては取り組みたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ希望に沿えるように考えている。	常に「どうしたいか？」の声かけをするようにしており、意向把握に努めている。把握した情報は東京センター方式の用紙に書き込み、職員で共有化している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にご自宅を訪問し、それまでの暮らし方、生活環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送り時に職員から詳しく聞き、心身状態なども実際に利用者で接することで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族さんには面会にみえたとき、お話するようにしている。課題やケアは職員と話し合い意見やアイデアを取り入れている。	面会時に家族の意見を、又受診時に医師の意見を聞いており、職員担当で立案し管理者がまとめ、家族に提示している。利用者の各部屋に計画表が置いてあり、家族はいつでも見られる。3ヶ月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書式も職員と何度も検討し作成した。出来る限り反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、まだまだ既存のサービスの枠から抜けられない部分が多いが、これからもっと柔軟な支援を行っていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会などの話もあったが、家族さんの反対で実現しなかった。他にもある多種の地域資源を掌握し出来る限り利用者の自由を尊重した支援を行いたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	半数以上の利用者はホームの主治医を希望されているが、他は昔ながらのかかりつけ医にかかっている。希望があれば受診に付き添って、主治医との関係を築くように努めている。	本人・家族の希望を第一にかかりつけ医を決めている。主治医以外のかかりつけ医の受診には、家族の要請で職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供は行っている。病院関係者との関係作りはなかなかできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期看取りはできないことは説明している。	現時点では体制が出来てないので、契約時に終末期の看取りは出来ないことを話している。将来1階のデイサービスで看護師の駐在が可能になれば、看取りについても再検討する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時持ち出し用紙、連絡網等、職員への周知は行っている。定期的な訓練は行っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。地域との協力体制は話し合ったが、まだ確立されていない。	ほぼ毎月1回、各種条件を設定し防災訓練をしており、利用者も避難するのに時間がかからなくなってきている。地域の巻き込みは出来てないが警察、消防署の入った緊急連絡網がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応をしている。	利用者は先輩であり、そのプライドを損ねないよう心掛けて接している。トイレ誘導もその人に合わせた確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望を聞き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務が優先されがちだが、利用者本位、利用者優先、職務はできなくてもいい、との指針を浸透させる努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の髪をセットしたり、訪問美容師に自由に注文していただいたり。時に化粧をしてさしあげたり身だしなみやおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方にはしていただいている。	昼食のおかずのみ食材業者からできたものを取り寄せているが、朝夕は自前の手作りである。利用者もできる人が手伝い、訪問時には大根を切ったり大根の葉っぱの漬物を作ったりしていた。職員も一緒に同じものを食しており、非常に賑やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯のかたはできているが、ご自分でされるかたについてはきちんとできてない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。	利用者のしぐさで判断したり声かけをして誘導しているが、全員がトイレでの排泄である。各人の排泄パターンに合わせた誘導でもらしても少なくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ時間は午前中ときめ、一日おきとなっている。	入浴は一日おきで午前中である。特に昼からとか夜入りたいという希望はない。自分で洗える人が半数おり、出来る人にはしてもらおう方針である。ゆず湯や菖蒲湯もあり楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息していただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は事務所で保管し、誤薬のないように1人づつのケースにわけ、薬の効能が一目でわかるように説明書をケースの横にさげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	動けるかたには今まで家庭でしてきたように家事など、どんどんしていただき、楽しみ、気分転換などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別で日用品等買いに行ったり、できる限り行っている。家族さんに週一度の連れ出しをして頂いている利用者もいる。	敷地内ではあるが天気の良い日は毎日散歩しているし、季節の花見や公園へは全員で出かけている。また職員の買物にも利用者がついていくこともあるし、毎週日曜日に来てドライブに連れ出す家族もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる利用者にはしている。失敗もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	していない。したいと思う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、花をかざり季節感を味わっている。	壁一面の大きな窓があり、非常に明るく、窓の外には大きな川と緑の木が見える。利用者の作品である大きな壁飾りもある。テーブルには季節の花が飾っており、テレビの音も小さく、各人が好きな場所で居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	かざられた空間のなかでも、座席の配置換えなど行い工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りしているが、以前からみえた利用者家族にももっと自由にさせていただくようにお話したい。	入り口には入居者の似顔絵が名札代わりに掛けてあり、室内はクローゼットがありきれいに整頓され家具類は少ない。壁には写真や絵を飾ったり、位牌を置いてる利用者もおられる。それぞれ自分流に工夫された部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限りはしているが、まだまだ途上である。		